



# むすび便り 2021年1月号

～寒中、お見舞い申し上げます～

新年を迎え、みなさまいかがお過ごしでしょうか。信州はマイナス6度前後の日も増えてきて、0度の日は「あったかい」と感じるようになってきました。畑は表土10センチはカチコチですが、凍った土の板の下にはゴボウやとっくり芋が生きていて、貯蔵しておいた大根や人参も凍らずにいます。人参や大根も収穫後に葉を切り落として埋めてありますが、掘り出してみると切り口から少しだけ芽がでているものも。野菜は収穫されて葉を切られても、ずっと生きていますね。すごい生命力です。カボチャや白菜は倉庫に貯蔵したものの、倉庫内でもカボチャが一部凍りはじめたので、凍結防止に夜中はヒーターをたくことにしました。なにぶんはじめてなので、品目がちゃんとそろうのかドキドキしながらの1月出荷です。種まきは2月から始まりますが、野菜の品数がそろって出荷再開できるのは5月下旬～となります。また近くなりましたらご連絡させていただきます。しばらくの間、ご不便おかけしますが、よろしくお願いいたします。

今年も、みんなで田畑からたくさん元気や美味しさをいただきながら、心も身体も健やかに過ごせますように。今年もどうぞよろしくお願いいたします！

## 農家の1月

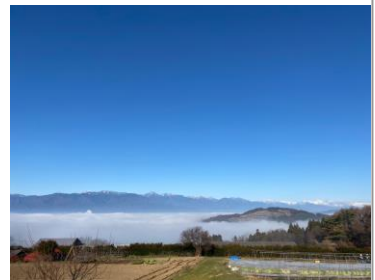
大豆の選別作業や、倉庫の片付けなど、この時期にできることをぼちぼちやる農閑期です。気をはるのは大雪時のハウスの雪下ろしくらいです。2月後半の種まきまでは、会計仕事をしたり、作付けや出荷計画を立てたり、種を買ったり、栽培の勉強会に参加したりと、次年度へのワクワクをあたためる期間です。



親子に人気の作業、落ち葉さらい。春の寒い時期に踏み込み温床につかう落ち葉を12月に集めます。熊手で集めて袋に詰め、軽トラの待つ坂の下に転がします。こどもたちは、ソリをしたり、落ち葉風呂をしたり、袋につめて落ち葉を落としたり、大喜び。



雪の収穫日、ソリ中の子ども達



畑から雲海が見えて感動でした



むすびのハードな農作業ベスト5に入るゴボウ掘り。長くて深いゴボウを折らずに掘るのは体力と忍耐と根気がいります。慣れるまでは1時間かけて1～3本しか掘れないことも。大変ですが、長いゴボウを掘り上げた時は、みんな感動もひとしお。意外と人気の作業です。

## 冬の過ごし方それぞれ

真冬の畑は虫の姿が殆どなく、虫が苦手な私にとって一見安心な環境です。ところが、実は虫たちはひっそり隠れて様々な姿で命を繋いでいるのです。卵で越冬するオオカマキリ。カメムシやナミテントウムシ、ウリハ虫は成虫で、蝶類は蛹で冬を越します。人間と違い体温をコントロールできない虫たちはそれぞれ賢い適応能力を身につけ、休眠状態で低温と餌不足を乗り越え春を待つのです。多種多様な虫がそれぞれの役割を全うできたその先に豊かな世界があるのだなあ…としみじみ。さて、今季は今回が最後になります。いつも読んでくださりありがとうございました。(瀬川)

